久慈市文化財マップ

編集・発行：久慈市教育委員会　文化課
〒028-0051 久慈市川崎町17番1号
TEL 0194－52－2700　FAX 0194－52－2730
印刷・製本：有限会社　九戸印刷
発行日　令和5年3月31日

⑫ 十三塚（じゅうさんづか）

天正19年（1591）九戸一揆の際に南部方についた野田氏が切腹する宇部館を、久慈氏の家臣13人が攻めましたが返り討ちとなり、その遺体を埋葬した塚といわれています。

⑬ 長久寺跡（ちょうきゅうじあと）

長久寺は元中８年（1391）に開山し、後に久慈氏の菩提寺となりましたが、久慈氏滅亡の際に廃寺になりました。場所は田屋町の久慈簡易裁判所周辺と推定されています。

⑭ 接待屋敷跡（せったいやしきあと）

八戸一揆の際に南部方についた久慈氏の係累の一族は、一揆後に接待の役務を押領し接待姓を名乗りました。後に知行した大川目には接待屋敷跡と呼ばれる場所があります。

⑮ 奥清水のべゴ泊り場跡（おくしみずのべごとまりばあと）

平舘峠から下った沢合いに、江戸時代から明治末期まで陸の道を利用した牛方たちが、ともとに野宿したべゴ泊り場があります。水飲み水舟も復元されています。

⑰ 旧馬場家板倉（きゅうばばけいたぐら）

馬産平地区にある馬場家は陸の道の牛方の宿の役割を果たしていました。明治６年（1873）に建築された板倉は塩蔵とも呼ばれ、交換した荷の一時保管にも使われました。

⑱ 山口発電所（やまぐちはつでんしょ）

久慈渓流で希少某活ににあり、大正９年（1920）に完成した九戸地方最初の発電所です。水力発電方式で、施設は改築されていますが発電機は当初からのものです。

⑲ 川崎製鉄久慈工場跡（かわさきせいてつくじこうじょうあと）

西山弥太郎が開設し、昭和14年（1939）から昭和42年（1967）にかけて操業した国内で唯一の砂鉄を原料にした製鉄工場です。市役所敷地内に記念碑が建立されています。

⑳ 墓石くんのこぼっぽ跡（はかいしくんのこぼっぽあと）

久慈郷が上呈される地頭には多数の境垣が埋蔵され「久慈層群と境垣」として日本地質百選に選定されています。久慈渓谷は県内唯一の珍しい壁伝です。元禄２年（1689）のものです。

㉑ 夫婦岩（めおといわ）

小袖海岸にある夫婦岩は、火山から噴出した溶岩が冷え固まったものです。柱状節理とよばれる五角形の柱状の岩が重なったような珍しい構造の岩です。

㉒ 銭洗（ぜにあらい）

久慈渓流にある観岩は、板状の石灰岩が垂直に切り立ち続くようです。元は水平に堆積した地層が大きの地殻変動で垂直に立ち上がったもので、見事な景観を呈します。

㉓ 骨石（ほねいし）

骨浜町の南浜に約30m四方にわたる平坦な巨岩があり骨石と呼ばれ、北に進れた源義経主従がここで昼食をとり、岩には義経が乗った馬の足跡も残っていると言われています。

㉔ ゴマシジミ

岩手県が希少野生動植物に指定している貴重なチョウです。岩手県では久慈市宇部町にしか生息が確認されていません。環境アレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類です。

㉕ 三船久蔵（みふねきゅうぞう）（明治16年・1883～昭和40年・1965）

久慈の八日町に生まれ、柔道を極め講道館十段に登りつめ、隅落し（空気投げ）などの技を編み出し、柔聖と呼ばれました。昭和29年に久慈市名誉市民第１号となりました。

㉖ タマシン・アレン（明治33年・1900～昭和51年・1976）

大正４年に来日、昭和13年に久慈に移住後、幼稚園や診療所、小・中学校、酪農学校、短期大学などを設立し、久慈地域に多大な貢献をした。昭和34年久慈市名誉市民第２号。

㉗ 小田為綱（天保10年・1839～明治34年・1901）

宇部町出身。潘校作人塾や八戸藩塾などでの子弟の教育や、明治政府への東北開拓の建言書の提出、明治政府立憲政体の「国憲」を評論した「憲法草稿評林」などの業績を残しました。

㉘ 小田観蛍（明治19年・1886～昭和48年・1973）

宇部町出身で小田為綱の甥にあたり、14才で北海道に渡り教員を務めながら短歌の創作活動を行ない、短歌誌「新墾」を主宰するなど、北海道歌壇育ての親と敬われています。

㉙ 諏訪神社の絵馬（志度と海女図）

この絵馬は玉取伝説を題材に描かれています。竜宮城から宝石の玉を取り返して逃げる海女と竜宮の戦士たちが戦う場面が豪快に描かれています。江戸時代後期の作です。

㉚ 参りの仏４幅（さんりのほとけよんぷく）

お寺のない地域で死者があるとその家に参りの仏の掛軸を作るし、死者を供養しました。４幅あり「六字名号」、「阿弥陀如来」、「聖徳太子」、「矛盾大子」が描かれています。

㉛ 諸国巡拝霊場尊像絵札（しょこくじゅんぱいれいじょうそんぞうえふだ）

各地の霊場の尊像絵札180枚がまとめて堂に納められています。この計数を参拝することで各地の霊場を巡拝したのと同じ功徳を得ようとしたものと考えられます。

㉜ 川代毘沙門堂の初代厳野権現（かわしろびしゃもんどうのしょだいいわのごんげん）

当地では獅子頭を権現さまと呼びます。この権現さまには年代が書かれていませんが、形態等から室町時代のものと推定され、当地方において最も古い時期に属するものです。

㉝ 諏訪権現（慶長12年銘）（すわごんげん）

この権現さまは、現在は諸訪明神社に納められています。慶長12年（1607）の銘があり当地方の江戸時代初期の形態を伝える貴重な羽黒系の権現さまです。

㉞ 新山大権現（にいやまだいごんげん）

この権現さまは、現在は諏訪明神社に納められており、延宝６年（1678）の銘があり、江戸時代前期の形態を伝える貴重な羽黒系の権現さまです。

㉟ 木造毘沙門天立像２体（もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう）

里沙門天は北方の守護神であることから、特に岩手に多く信仰です。平安時代後期の記風を技法が認められ、当地方における最古の仏像です。長泉寺の本堂に安置されています。

㊱ 鉄造三角錐塔婆（てつぞうさんかくすいとうば）

塔ばこは空社などに用り墓付信仰の対象としたものです。塔婆の多くは神仏像ですが、本資料は馬が表現されている県内唯一の珍しい塔ばです。元禄２年（1689）のものです。

㊲ 石刀（せきとう）

刀状の石器で、ムラの長が権力を示すために用いたと考えられています。待例町から開口の際に出土したものもので、形態や製作技法から縄文時代晩期のものと思われます。

㊳ 浅鉢（あさばち）

骨浜町北野から出土したものです。弥生時代初期のもので、非常に丁寧に製作されており、表面には朱が塗られています。製作された当時の姿を完全にとどめた貴重な土器です。

㊴ 甲冑形漆跡並土塔状型土製品一括（かっちゅうがたうるしあとならびにどとうじょうがたどせいひんいっかつ）

甲兵内遺跡は奈良・平安時代に城郭の玉作が行われた遺跡で、玉の未完成品が多量に出土しました。完成品は消費地に流通したものと考えられ、出土しませんでした。

㊵ 緑刻判張陀三尊銭像（りょくこくばんちょうださんそんぜにぞう）

旭町の経塚沢遺跡の堅穴住居跡から出土しました。平安時代の鏡で、端花双鳳八稜鏡の形式で、銭面に阿弥陀三尊像が線刻されています。当地方への伝播の伝播を示す資料です。

㊶ 諏訪神社木殿・拝殿　附　棟札１枚（すわじんじゃきどん・はいでん　つけたり　むなふだいちまい）

諏訪神社の本殿は安政３年（1856）、拝殿は寛政３年（1791）に建てられており、当地方では最古の木造建築物です。神社の建築の変遷を示す棟札も13枚残されています。

㊷ 守の獅子印（もりのしいん）

江戸時代には山根町細野の山林を管理した山守が持っていたと伝えられる朱印です。この焼印は大きさや形状等から材木用ではなく、馬用のものと推定されます。

㊸ 蛭子神社の棟札４枚（えびすじんじゃのむなふだよんまい）

神社には市内最古の文明13年（1481）の棟札及び元亀・寛永・延宝期の棟札が計４枚残されており、特に文明期の棟札は津軽藩の始祖である大浦光信が奉納したと推定されています。

㊹ 蛭子神社の助人足覚面附２枚（えびすじんじゃのすけにんそくかくめんつけたり２まい）

この助人足覚面附は神社の建築に従事した人の名や地名、人数を記録したものです。当地方で最も古い時代の面附で、現在ではなくなった地名などと記されており貴重な資料です。

㊺ 寒長根の一里塚（さむながねのいちりづか）

久慈・野田と盛岡をつなぐ街道はふたつのルートがあり、この一里塚は久慈町を通り角掛峠で合流する街道に築かれており、街道両脇に２基一対の塚が形をとどめています。

㊻ 麦生砲台場跡（むぎうほうだいばあと）

砲台場とは、江戸時代に出没する異国船から沿岸防備のために大砲を設置した場所で、沿岸各地に設置されましたが、大砲を据えた土塁が残されています。

㊼ 庚申供養塔（こうしんくようとう）

庚申塔は、庚申の日の夜に眠らずに過ごし延命長寿や豊作を祈願する行事を供養したことを記念して建てました。この庚申塔は県北最古の青享５年（1688）のものとして貴重です。

㊽ 御申大権現庚申塔（おさるだいごんげんこうしんとう）

この庚申塔は、県内に約5000基ある庚申塔のうち唯一「御申大権現」と刻まれた珍しいものです。寛保２年（1742）の銘があり、市内で２番目に古い庚申塔です。

㊾ 石造青面金剛像（せきぞうしょうめんこんごうぞう）

庚申信仰と仏教とが結びつくと庚申の本尊は青面金剛となることにこの庚申塔には青面金剛が彫られています。宝暦３年（1753）の銘があり市内で３番目に古い庚申塔です。

㊿ 川代の二十三夜塔・庚申供養塔（かわしろのにじゅうさんやとう・こうしんくようとう）

２基の石塔が並んで建っており二十三夜信仰と庚申信仰が一緒に行われていたことをを示しています。二十三夜信仰は１月23日の夜の月の出から作占いなどをした行事です。

(51) 慈光寺の一字一石塔（じこうじのいちじいっせきとう）

慈光寺の一字一石塔と同様に、接待宿舘が享保３年（1718）に九戸一揆で滅んだ久慈氏ら戦死者の供養のために建てたものと推定されています。

(52) 山口八幡宮の一字一石塔（やまぐちはちまんぐうのいちじいっせきとう）

これは経塚の一種で、法華経の経文を小石に一文字ずつ書き地中に埋納し、その上に石塔を建てたものです。享保３年（1718）に久慈氏の末裔である接待宿舘が建立したものです。

(53) 和野のイチョウ（わのいちょう）

宇部町和野にあるイチョウは偉人小田為綱の生家に生育し、小田家の屋号は「銀杏の木」でした。胸高周５m71cmを測り、イチョウとしては市内で第３位の大きさです。雄株です。

(54) 石神（いしがみ）

神状の石器で、形が閉じた筒卓に似ており卸産石と呼ばれます。山根町周神の山中から縄文時代後期の土器とともに発見されており、祭祀に使われたものと考えられます。

(55) 夫婦岩（めおといわ）

小袖海岸にある日吉神社社殿の正面にあるイチイの日木です。胸高周３m42cmで、イチイのおとしては市内で第２位の大きさです。

(56) 熊野神社のイチイ（くまのじんじゃのいちい）

山根町下戸頭の熊野神社の境内にあるイチイの巨木です。幹に空洞化がみられますが樹勢は良好です。胸高周３m34cmでイチイのおとしては市内で第３位の大きさです。

(57) 着前神社のアカマツ（きまえじんじゃのアカマツ）

小久慈町海内の着前神社の境内にあるアカマツで胸高周囲3m85cmの巨木です。樹勢は旺盛であり市内にあるアカマツの代表的な巨木です。

(58) 大滝小滝大明神のアカマツ（おおたきこたきだいみょうじんのアカマツ）

常盤貴会の松方五郎が幼鉄採掘の安全を願い大正９年に アカマツの近くに稲荷神社を建て、その後、大滝小滝大明神と選択したためその名がつきました。胸高周囲４m30cmです。

(59) 侍浜 八幡宮の大杉（さむらいはま はちまんぐうのおおすぎ）

侍浜八幡宮の境内にある御神木で、かつては海を航海する船乗りたちにこの大杉を目印としたといわれています。胸高周囲６m40cmあり市内で３番目に古い巨木です。

(60) 端神の大桂（はしがみのおおかつら）

山根町端神の社の広場の脇を流れる清流沿いに生育し、胸高周囲15m58cmでカツラの木としては市内最大です。樹勢も良好で、秋には葉からけい香りが漂います。

(61) 天神堂のイチョウ（てんじんどうのいちょう）

天神堂にあるイチョウの巨木です。胸高周７m46cmを測り、イチョウとしては市内で第２位の大きさです。雌株です。

(62) 上野山の宝篋印塔（うえのやまのほうきょういんとう）

長内町に所在し室町時代末期に建てられた町内最古の宝篋印塔です。相輪と呼ばれる最上部の一部は欠失しています。

(63) 渓流の宝篋印塔２基　附　相輪２基（けいりゅうのほうきょういんとう２きつけたりそうりん２き）

山根町渓流に所在し室町時代末期に建てられたものと推定されています。２基が現存していますが、完成品は相輪２基も残されており、本来は４基あったものと思われます。

(64) 日野沢の宝篋印塔（ひのさわのほうきょういんとう）

山形町日野沢の墓地に所在し室町時代後期に建てられたものと推定されています。相輪が折れていますが、各部とも完全な形をとどめています。

(65) 木光内の三界萬霊塔分碑（きみつうちのさんかいばんれいとうぶんぴ）

この碑は全ての生き物を供養する三界万霊塔と道標を兼ねたものです。文化２年（1805）建立の道標として市内最古で、東西街北の分岐で道を示すのは市内唯一です。

(66) チョウセンアカシジミ

このチョウは日本の限られた地域にしか生息しておらず、市内では宇部町に生息しています。水河期に大陸と日本が地続きであった頃に大陸から渡ってきたと考えられています。

(67) 下戸頭の燈（しもとがしらのとう）

山根町下戸頭の燈明神社の境内にあるケヤキの巨木で胸高周８m75cmを測ります。樹形が整っており、ケヤキの老樹の見本とも言われています。

(68) 枝成沢のイチイ（えだなりさわのいちい）

枝成沢地区にあるイチイの巨木で胸高周３m45cmを測ります。イチイのおとしては市内で第１位の大きさです。

(69) 葛光寺の杉並木（かっこうじのすぎなみき）

葛光寺参道の両側に胸高周１m90cmから４m25cmの杉が計74本並び、総延長も305mと長く東北屈指の杉並木です。天保年間と明治13年に植樹されたと推定されています。

(70) 琥珀大景石（こはくだいけいせき）

昭和２年に鉱山師である藤桝善兵衛が夏井町久喜で採掘したものと考えられ、縦41.4cm、横46.7cm、厚さ22.4cm、重量約20kgの国内最大の琥珀原石です。

(71) 白笹地鶏（しらささじどり）

地鶏とは日本古来の特徴を伝える希少な鶏です。この地鶏は飛翔力が強く野性味があります。また闘体について羽に黒なる色が発生し、白斑・赤斑・銀斑などと呼ばれます。

(72) 緒石（おいし）

山形町日野沢の統石神社の背後に独立して立つ自然の岩石です。巨岩が垂直によって横方向に５段に割れて重なっており、自然の現象として珍しい形状をしています。

(73) 久慈代官所跡（くじだいかんしょあと）

江戸時代に藩南郷の領地に代官所を設置し代官を派遣して統治が行われました。久慈代官所は八戸藩が久慈通に設置したもので、現在の中町にその跡地があります。

(74) 野田通代官所跡（のだどおりだいかんしょあと）

寛文４年（1664）盛岡藩と八戸藩が分かれた後、盛岡藩が野田通に設置した代官所の跡地です。宇部町の宇部館の南側附近にあたります。

(75) 関御番所跡（せきごばんしょあと）

久慈・野田と盛岡をつなぐ野田街道沿いに警備などのために設けられた関所の跡です。関は交通の要衝であり藩の御札場も置かれ、関の地名もこれらに由来するものです。

(76) 宇部館跡（うべやかたあと）

大永年中（1521～1527）に南部晴左衛門義被が一戸から宇部に入部し宇部館に居館し、野田姓を名乗ったとされます。館の頂上には八幡宮がありハ幡館とも呼ばれています。

(77) 谷戸場の一里塚（やとばのいちりづか）

この一里塚は久慈・野田と盛岡をつなぐ野田街道（盛岡・塩の道）に築かれたものです。街道両脇に対をなして２基が現存しており、野田街道沿いで最も良好な保存状態の一里塚です。

(78) 枝成沢虫まつり（えだなりさわむしまつり）

枝成沢虫まつりは農作物を害虫から守る五穀豊穣を祈る行事で、百年以上の歴史があります。棒にくくりつけた藁人形をかつぎ、笛や太鼓を鳴しながら練り歩きます。

(79) 牛の角突き（うしのつのつき）

江戸時代に野田街道（通称：塩の道）を往来する牛方が牛の隊列の先頭に立つリーダーの牛を決めるために、巻先に角を突き合わせ優劣を決めたのが「角突き」です。東北では唯一です。

(80) 久慈の海女漁の技術（くじのあまりょうのぎじゅつ）

久慈の海女漁は現在、宇部町久喜・三崎・小袖と長内町大沢に伝承されています。明治時代初期に発祥し、磯場を知り尽くし潜かを変わらぬ海女の素潜り技術を伝えています。

(81) 寺里住居跡（てらさとじゅうきょあと）

寺里地区の台段に営まれた奈良・平安時代のムラの跡です。昭和41・42年に久慈高等学校郷土史研究会によって発掘調査が行われ、竪穴住居跡が発見されています。

(82) 二子貝塚（ふたごかいづか）

久慈湾に面した丘陵上の高台にある縄文時代後・晩期の貝塚で、縄文人が食べた貝の殻や動物の骨等が出土しており当時の食生活等を知ることができる貴重な貝塚です。

(83) 久慈城跡（くじじょうあと）

久慈城は戦国時代に二の曲を治めた久慈氏の居城でした。久慈氏の直系は九戸一揆の際に豊臣秀吉の大軍に敗れ滅亡しました。久慈城は現存しませんが、中世山城の形態を今に伝える重要な史跡です。

(84) 内間木洞及び洞内動物群（うちまぎどうおよびどうないどうぶつぐん）

安家石灰岩地帯に形成された総延長６kmを超す巨大鍾乳洞です。鍾内には コウモリや昆虫類が生息しています。冬には地面から上方に氷が成長する氷柱が数多く形成されます。

(85) 霊場十三重塔（れいじょうじゅうさんじゅうのとう）

山形町川井の早坂平遺跡は旧石器時代の遺跡です。付近から石器の製作を探取し、石器作りが盛んに行われており東北地方の旧石器時代を代表する遺跡とされています。

(86) 平沢一里塚と墓（ひらさわいちりづかとはか）

江戸時代に街道には一里（約４km）毎に塚が築かれました。長内町の平沢一里塚は宮城から青森に至る沿岸の浜街道に築かれたもので、２基一対のうち１基が残っています。

(87) 霊塔のケヤキ群（れいとうのケヤキぐん）

墳墓八幡神社の境内には２本のケヤキの巨木があり、胸高周はそれぞれ６m84cmと６m49cmを測ります。以前は４本ありましたが今は２本が残されています。県内最大のケヤキの巨木です。

(88) 諏訪神社の絵馬（奪宮図）（すわじんじゃのえま（だつみやず））

この絵馬は浦島太郎伝説を題材に描かれています。竜宮城に到着した浦島太郎を竜王が迎える場面がケヤキの一枚板に描かれています。享和２年（1802年）の絵馬です。

1 国指定文化財

種別		No.	名称	所在地	管理者	指定年月日	備考
記念物	天然記念物	1	長泉寺の大公孫樹	門前	長泉寺	昭和6年2月20日	胸高周22.27m（平成25年の計測値）
有形文化財	建造物	2	アレン記念館（国登録）	本町	東北文化学園大学	平成28年11月29日	昭和16年（1941）建築

2 県指定文化財

種別		No.	名称	所在地	管理者	指定年月日	備考
有形文化財	彫刻	3	獅子頭	小久慈町	丹内社	昭和58年12月23日	文明17年（1485）
民俗文化財	無形民俗	4	夏井大梵天神楽	夏井町鳥谷	夏井大梵天神楽保存会	平成11年5月7日	
記念物	史跡	5	久慈城跡	大川目町	個人	令和4年4月8日	戦国時代
	天然記念物	6	内間木洞及び洞内動物群	山形町小国	久慈市	昭和41年3月8日	約3億年～1億5,000万年前
		7	霜畑のケヤキ群	山形町霜畑	霜畑八幡宮	昭和55年3月4日	2本 胸高周6.84m、6.49m（指定時の計測値）

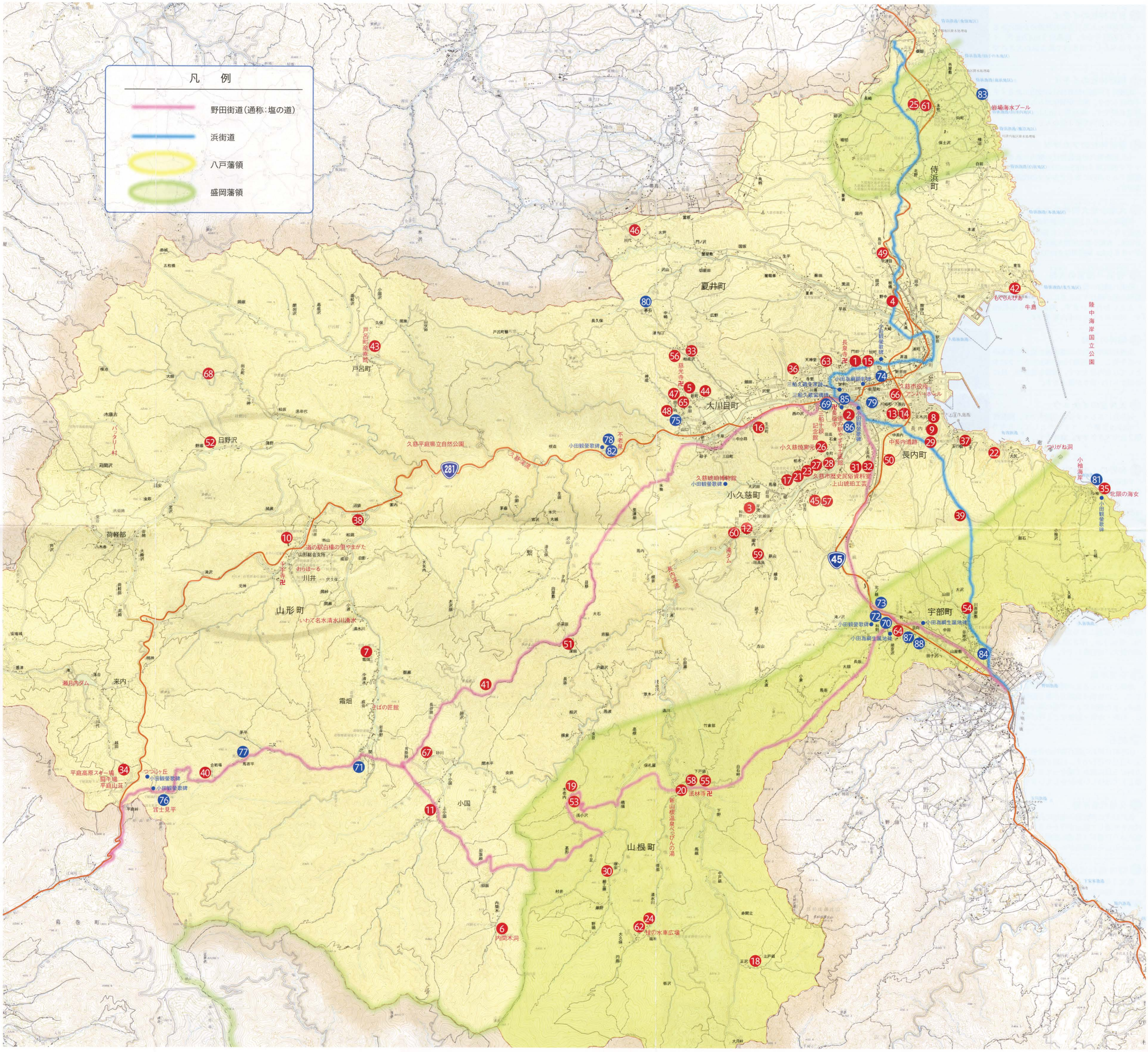
3 市指定文化財

種別		No.	名称	所在地	管理者	指定年月日	備考
有形文化財	絵画	8	諏訪神社の絵馬（竜宮図）	長内町	諏訪神社	昭和60年8月1日	享和2年（1802）
		9	諏訪神社の絵馬（志度之海女図）	長内町	諏訪神社	昭和60年8月1日	江戸時代後期
		10	参りの仏 4幅	山形町川井	個人	昭和54年12月11日	室町時代
		11	諸国巡拝霊場尊像絵札	山形町小国	個人	昭和60年4月10日	嘉永2年（1849）頃
	彫刻	12	川代毘沙門堂の初代熊野権現	小久慈町	川代毘沙門堂	昭和60年8月1日	室町時代
		13	諏訪権現（慶長12年銘）	長内町	諏訪明神社	昭和60年8月1日	慶長12年（1607）
		14	新山大権現	長内町	諏訪明神社	昭和60年8月1日	延宝6年（1678）
		15	木造毘沙門天立像2体	門前	長泉寺	平成5年4月28日	平安時代後期
	工芸品	16	鉄造三馬像懸仏	大川目町	五坊観音堂	昭和60年8月1日	元禄2年（1689）
		17	銅鰐口	小久慈町（久慈市歴史民俗資料室）	久慈市教育委員会	平成5年4月28日	慶安3年（1650）
	古文書	18	宇野人家録	山根町上戸鎖	個人	昭和48年10月8日	天保7年（1836）
		19	馬継所印 附 人馬継立判鑑	山根町木売内	個人	昭和60年8月1日	江戸時代
		20	下戸鎖の馬継所印	山根町下戸鎖	個人	平成30年3月20日	江戸時代
		21	憲法草稿評林	小久慈町（久慈市歴史民俗資料室）	久慈市教育委員会	令和5年3月31日	明治時代、小田為綱による憲法評論
	考古資料	22	遮光器土偶	長内町	個人	昭和48年10月8日	縄文時代晩期
		23	壺	小久慈町（久慈市歴史民俗資料室）	久慈市教育委員会	昭和48年10月8日	
		24	石棒	山根町端神	個人	昭和48年10月8日	縄文時代後期
		25	石刀	侍浜町本町	個人	昭和48年10月8日	縄文時代晩期
		26	浅鉢	小久慈町	個人	昭和60年8月1日	弥生時代初期
		27	中長内遺跡出土琥珀製玉類未完成品一括	小久慈町（久慈市歴史民俗資料室）	久慈市教育委員会	平成9年9月1日	奈良・平安時代
		28	線刻阿弥陀三尊鏡像	小久慈町（久慈市歴史民俗資料室）	久慈市教育委員会	平成30年3月20日	平安時代後期
	建造物	29	諏訪神社本殿・拝殿 附棟札13枚	長内町	諏訪神社	平成12年6月1日	本殿：安政3年（1856） 拝殿：寛政3年（1791）
民俗文化財	有形民俗	30	山守の焼印	山根町細野	個人	昭和48年10月8日	江戸時代
		31	蛭子神社の棟札4枚	長内町	蛭子神社	平成5年4月28日	文明13年（1481）他
		32	蛭子神社の助人足覚面附 2枚	長内町	蛭子神社	平成5年4月28日	延宝元年（1673）
	無形民俗	33	枝成沢虫まつり	枝成沢	枝成沢町内会	平成9年5月1日	
		34	牛の角突き	山形町	いわて平庭高原闘牛会	平成28年5月2日	
		35	久慈の海女漁の技術	宇部町・長内町	いわて久慈「海女のふるさと会」	平成30年3月20日	明治時代発祥
記念物	史跡	36	寺里住居跡	寺里	個人	昭和48年10月8日	奈良・平安時代
		37	二子貝塚	長内町	個人	昭和48年10月8日	縄文時代後期～晩期
		38	早坂平遺跡	山形町川井	個人	平成18年2月24日	旧石器時代
		39	平沢一里塚 1基	長内町	個人	平成5年4月28日	江戸時代
		40	合戦場の一里塚	山形町霜畑	個人	昭和54年12月11日	江戸時代
		41	寒長根の一里塚	山形町繋	久慈市	昭和58年9月8日	江戸時代
		42	麦生砲台場跡	侍浜町麦生	個人	平成5年4月28日	江戸時代
		43	庚申供養石塔	山形町戸呂町	個人	昭和60年4月10日	貞享5年（1688）
		44	御申大権現庚申塔	大川目町	個人	平成5年4月28日	寛保2年（1742）
		45	石造青面金剛像	小久慈町	日吉神社	昭和60年8月1日	宝暦3年（1753）
		46	川代の二十三夜塔・庚申供養塔	夏井町夏井	個人	平成5年4月28日	二十三夜塔：文政12年（1829） 庚申供養塔：文化元年（1804）
		47	慈光寺の一字一石塔	大川目町	慈光寺	平成5年4月28日	享保3年（1718）
		48	山口八幡宮の一字一石塔	大川目町	山口八幡宮	平成5年4月28日	享保3年（1718）
		49	鳥谷の宝篋印塔	夏井町鳥谷	個人	平成5年4月28日	室町時代末期
		50	上野山の宝篋印塔	長内町	個人	平成5年4月28日	室町時代末期
		51	深田の宝篋印塔2基 附相輪2基	山根町深田	個人	平成5年4月28日	室町時代末期
		52	日野沢の宝篋印塔	山形町日野沢	個人	昭和60年4月10日	室町時代後期
		53	木売内の三界萬霊追分碑	山根町木売内	個人	平成5年4月28日	文化2年（1805）
	天然記念物	54	チョウセンアカシジミ	宇部町	—	昭和62年10月27日	
		55	下戸鎖の欅	山根町下戸鎖	久慈市	昭和55年11月1日	胸高周8.75m（指定時の計測値）
		56	枝成沢のイチイ	枝成沢	個人	昭和55年11月1日	胸高周3.45m（平成5年の計測値）
		57	日吉神社のイチイ	小久慈町	日吉神社	平成5年4月28日	胸高周3.42m（指定時の計測値）
		58	熊野神社のイチイ	山根町下戸鎖	久慈市	平成5年4月28日	胸高周3.34m（指定時の計測値）
		59	蒼前神社のアカマツ	小久慈町	小久慈文化財保存会	昭和60年8月1日	胸高周3.85m（指定時の計測値）
		60	大滝小滝大明神のアカマツ	小久慈町	小久慈文化財保存会	昭和60年8月1日	胸高周4.30m（指定時の計測値）
		61	侍浜八幡宮の大杉	侍浜町本町	侍浜八幡宮	昭和60年8月1日	胸高周6.40m（指定時の計測値）
		62	端神の大桂	山根町端神	個人	平成5年4月28日	胸高周15.58m（指定時の計測値）
		63	天神堂のイチョウ	天神堂	個人	平成5年4月28日	胸高周7.67m（指定時の計測値）
		64	和野のイチョウ	宇部町	個人	平成5年4月28日	胸高周5.71m（指定時の計測値）
		65	慈光寺の杉並木	大川目町	慈光寺	平成9年9月1日	胸高周1.90m～4.25m（指定時の計測値）
		66	琥珀大原石	川崎町（久慈市文化会館）	久慈市教育委員会	平成12年6月1日	約9,000万年前
		67	白笹地鶏	山形町小国	個人	昭和52年8月9日	
		68	続石	山形町日野沢	続石神社	昭和58年3月7日	

※「附（つけたり）」とは指定物件に付属品があるものです。

4 指定文化財以外の文化財

No.	名称	所在地	備考
69	久慈代官所跡	中町	江戸時代
70	野田通代官所跡	宇部町	江戸時代
71	関御番所跡	山形町	江戸時代
72	宇部館跡	宇部町	戦国時代
73	十三塚	宇部町	戦国時代
74	長久寺跡	新井田	室町時代
75	接待屋敷跡	大川目町	江戸時代
76	奥清水のベゴ泊り場跡	山形町	江戸～明治時代
77	旧馬場家板倉	山形町	明治6年（1873）
78	山口発電所	大川目町	大正9年（1920）
79	川崎製鉄久慈工場跡	川崎町	昭和時代
80	碁石くんのこほっぱ跡	枝成沢	江戸～昭和時代
81	夫婦岩	宇部町	約1億2,000万年～1億1,000万年前
82	鏡岩	大川目町	約3億年～1億5,000万年前
83	侍石	侍浜町	約1億2,000万年～1億1,000万年前
84	ゴマシジミ	宇部町	岩手県指定希少野生動植物

5 偉人

85	三船久蔵	久慈市名誉市民第1号（昭和29年12月25日）
86	タマシン・アレン	久慈市名誉市民第2号（昭和34年11月3日）
87	小田為綱	
88	小田観螢